

第12回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……………）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧ください。

2006年 4月 5日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

判りやすくダイレクトな表現で！（その2）

最近の分析事例の中で、出てきた不適切な表現を以下に挙げます。

「〇〇の不具合」

「〇〇の異常」

「〇〇の故障」

「〇〇の能力不足」

どの表現にしても、「ここら辺がおかしい」といっているに過ぎず、非常にあいまいな表現です。

例えば、プロ野球の記事ならともかく、「ひじの故障」といっても、どのように故障なのか言わないと、的確な原因追求が難しくなります。

このような表現を放置し、分析を続けていくと、これ以降あいまいな分析が続いてしまうか、または行き当たりばったりの要因しか出てこなくなってしまう。

また、これを検証する場合に、「いったい何を検証したらよいのだろうか？」とか、意見を出した人と検証する人が違う場合に、本当に検証すべき状態を間違ってしまった、なんてことになりかねません。

このようなことは、いつものトラブル追求の議論でも気をつけなければならないことです。

出来る限り、わかりやすくダイレクトな表現を心がけましょう。

以上